

# 県の再生可能エネルギー導入モデル地区に指定

## 川端通りをエコ商店街に

政務レポート

# りれーしょん

2011年11月1日  
鳥取県議会議員  
鳥取市片原1-107  
砂場隆浩

「Relation」とは1605年、ストラスブールでヨハデで世界新関係が創刊された「関係」。初めて創刊された「関係」という直訳すれば「関係」というつまり、架け橋という意味があります。

鳥取県が進める「環境イニシアティブ事業」の中心となる再生可能エネルギー導入事業のモデル地区の公募審査が行われ、たくさんの応募の中から鳥取市の川端通り商店街と湯梨浜町が選ばれました。今年度中に基本計画を策定し、来年度から事業に本格着手します。当選直後から商店街のみなさんと議論を重ね、一緒に応募書類を作成しただけに本当にうれしい限りです。川端通り商店街が太陽光発電を中心としたスマートグリッドを構築した日本一のエコ商店街になるよう全力を尽くします。



川一アーケード管理組合のみなさんと私

「環境イニシアティブ事業」は文字通り、日本の環境政策のイニシアティブを握るような先進的事業を展開して、環境立県を実現するという意欲的な政策で、平井知事のマニフェスト「みんなでやらいや！ 未

来づくり」の大きな柱の一つです。太陽光や風力など自然の力を使った再生可能エネルギーの導入は、循環型リサイクル社会の実現と共に、その中核をなすもので、様々なチャレンジがなされます。同商店街は、県都の顔ともいえるべき商店街の一角。全天候型のアーケードが登場したのも、エスカレーターが

登場したのも同商店街が県下で初めてというハイカラな街でした。名画座、世界館という賑わいの中心だった映画館の廃館後、徐々に元気を失いつつありました。近年、マンションの建

## 商店街の皆さんと議論重ね、応募

県生活環境部に相談した

ところ、6月補正予算で1410万円を計上した再生可能エネルギー導入モデル事業で、モデル地区を公募することのこと。米村会長、増田誠一・川端界限活性化協議会会長ら商店街の皆さんと、先進事例や関係する研究を調べ、夜間の電力供給や積雪への対応など、次々に出てくる課題を検討して

膨らませています。夜間の電力供給は、風力発電がガス発電のエコファームを組み込んだスマートグリッドの構築で解決。電気を逆流させると発熱する太陽光パネルの性質を生かし、融雪装置として使うアイデアも生まれました。LED照明など徹底した省エネも図ります。これらの議論の成果をまとめて応募したのが今回の「自然エネルギーを活用した川端通りエ

コ再生事業」です。ヒアリング調査などを受け、モデル地区採用の通知が届いたのは10月中旬。専門家を加えた委員会を立ち上げ、今年度中に基本計画をつくりだします。米村会長らは「住民主体の計画だから評価されたのだろう。今後は、県の支援を受けながら、日本一エコな商店街を実現したい」と期待に胸を

を実現する新しい持った電力網のこと。省エネとコスト削減を目的とするが、太陽光や風力など自然エネルギーでの発電は、天候などで発電量が刻々と変化するため、スマートグリッドの導入による安定的な電力供給が不可欠とされる。

## 用語 スマートグリッド

「スマート」という語が表すように、コンピュータで制御する高機能な電力制御装置を、発電設備から末端の電力機器まで組み込んでネットワークで結び合わせ、最適化した電力の需給

設で地域人口が増加。若い人たちがカフェや洋品店を開店するなどの新しい動きも出ています。同商店街の商店主らでつくる米村規雄・川一アーケード管理組合会長らから、アーケードに太陽光パネルを載せ、エコ商店街にする夢に満ちた相談が寄せられ